My Stars 通信

No.47 **May 2018**

マイスターズ登録者の皆様いかがお過ごしでしょうか。『MyStars通信』４７号ができましたのでお送りします。2018年４月末現在の登録者数は９，700名です。1万人まであと300人です。

鳥居に沈む太陽

今年の春は天候に恵まれず曇りの日が多く、海に沈む太陽が見られたのはほんの数回だけでした。風が強くなると白波が立ち、海の中の鳥居というのが引き立ちますが、波しぶきでカメラが大変な事になります。凪だと物足りないので、ほどほどの波があると画になりますね。夏至の太陽はもっと右の方になりますが、鳥居の正面までは行きません。大荒れの波と鳥居と日没というのも撮ってみたいですが、ちょっと勇気がいります。

綺羅星・星座ガイド

前回に続き、知名度の低いかなり地味な星座の紹介です（後編）。

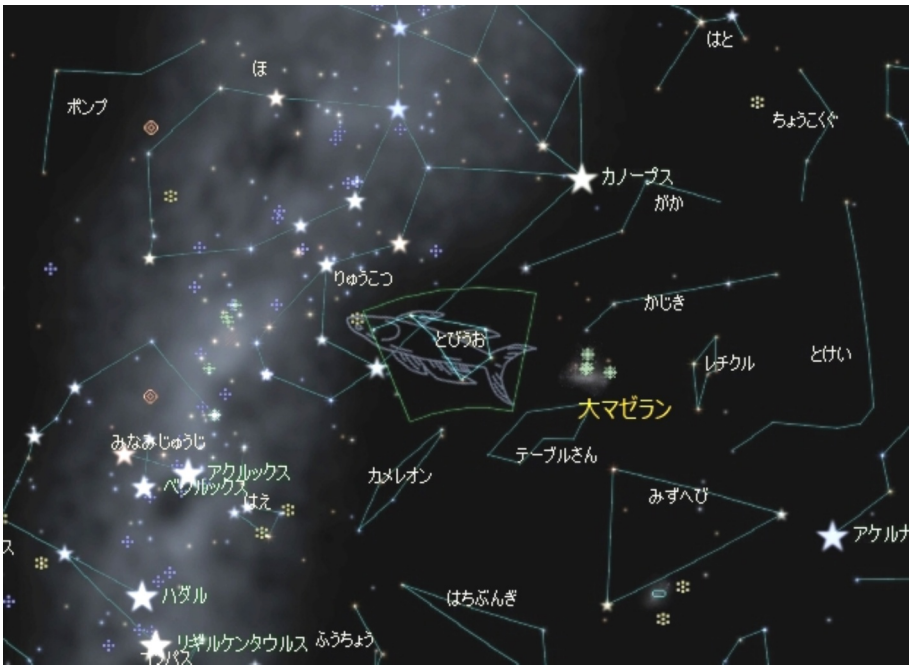
◎時計（とけい）座

1763年にフランスのラカーユが作った星座で、振り子時計を表しています。沖縄ではほぼ全体が見えますが、北海道では一番北の星が見えるだけです。

エリダヌス座南部の東側にありますが、とけい座の北にあるα（ｱﾙﾌｧ）星が4等星で、他は5等星以下の暗い星ばかりなので、時計の姿を想像するのは難しいでしょう。

◎飛魚（とびうお）座

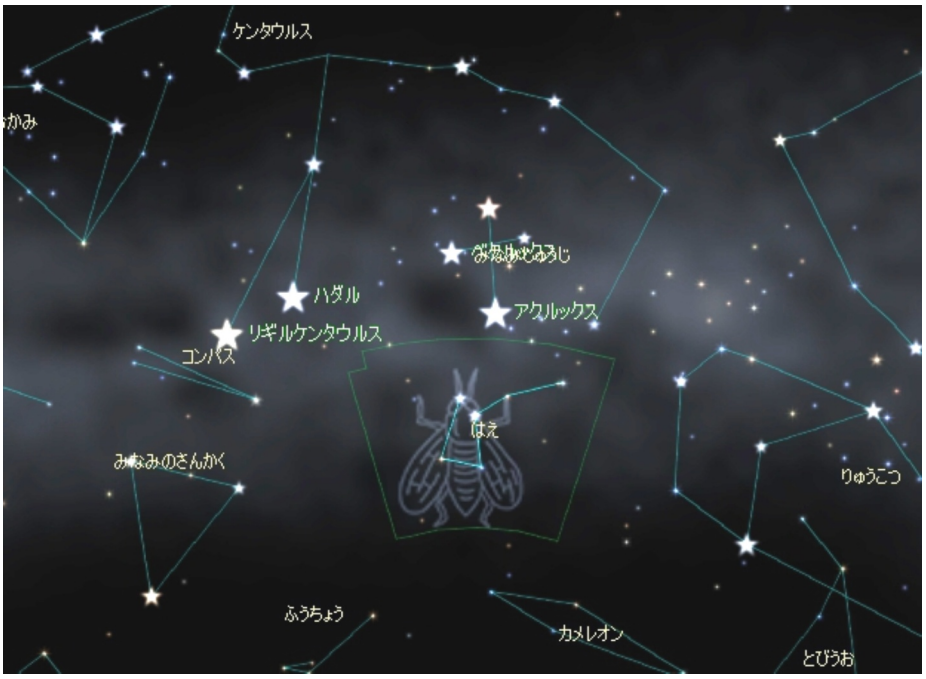
1603年にバイエルによって作られた星座です。南に低いので沖縄よりさらに南へ行かなければ見られません。トビウオと言えば、大きな胸びれを使って空を飛ぶ（グライダーのように滑空する）ことで知られています。とびうお座はりゅうこつ座のカノープスと南十字座の中間付近で、西に大マゼラン銀河があります。



星は4等星が6個ありますが、トビウオのイメージはつかみにくいでしょう。

◎蠅（はえ）座

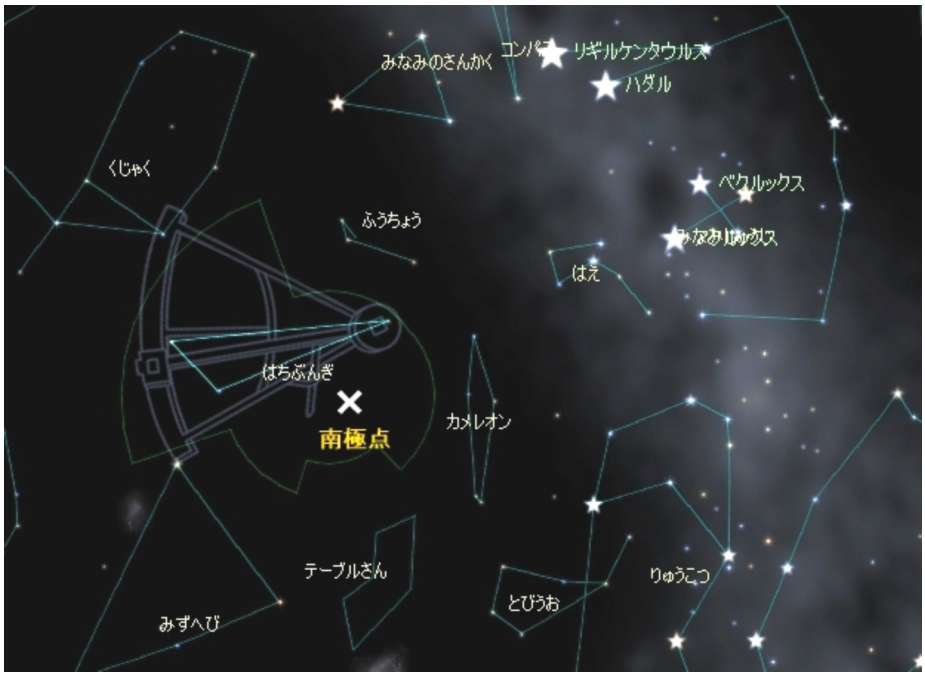
1763年にラカーユが作った星座で、南十字のさらに南にあり日本では見られません。星座名は「はえ座」となっていますが、日本では昭和50年ころより前の本で「はい座」と書かれているも



のもあります。ラカーユより前に、バイエルはウラノメトリアという星図の中で「蜜蜂（みつばち）座」として載せていました。みつばち座はおひつじ座の隣に作られたこともありますが、今は使われていません。はえ座の南にカメレオン座がありますが、星座絵ではカメレオンがハエを食べようとしている姿で描かれています。

　はえ座は2個の3等星と4個の4等星がX型に並んでいますが、特に目立つものはありません。

◎八分儀（はちぶんぎ）座



　1763年にラカーユが作った星座。八分儀というのは角度を測る機械で、精密な分度器の一つです。似たような機械に四分儀や六分儀があります。

　はちぶんぎ座は最も南に位置する星座で、日本から見る事はできませんが、この中に南極星（はちぶんぎ座ρ(ロー)星）があります。北極星は2等星なので目立ちますが、南極星は5等星と暗く星空の中から見つけ出すのは苦労します。北極星の見つけ方に、北斗七星の二つの星を5倍伸ばして見つける方法があります。南極星にも同じように見つける方法があります。南十字座は目立つので、この十字の縦軸を南に4.5倍伸ばしたところにあります。でも5.5等星なので見つけにくいです。はちぶんぎ座は3個の4等星が細長い三角形を作っていて、特に見やすい星でもないですが、南半球に行ったとき、ついでがあったら探してみましょう・・南極星を。

◎風鳥（ふうちょう）座

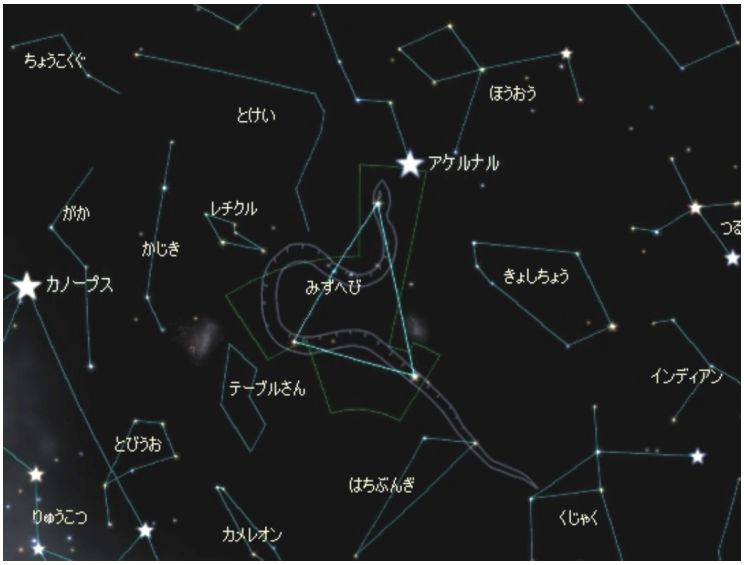
　1603年にバイエルが作った星座ですが、天の南極に近く日本から見ることはできません。

　フウチョウはニューギニアに生息する鳥で、その美しい羽が羽根飾りとしてヨーロッパの人々にもてはやされていました。原住民はこの鳥を輸出する際、なぜか足を切り取っていたのです。その

ため『この鳥に足がないのは、地上に降りず一生風まかせに飛んでいるからに違いない』と考え、“風鳥”と呼ばれることになったそうです。

ふうちょう座はケンタウルス座、南十字座の南にありますが、3個の4等星以外は5等星以下の暗い星ばかりなので、ここに星座を見つけ出すのは難しいでしょう。

◎水蛇（みずへび）座



ドイツのバイエルが1603年に作った星座で、エリダヌス座の南にあります。みずへび座には3等星が3個ありますが、南に低いため沖縄でも一番北にある3等星が1個見えるだけで、全体を見るには赤道付近まで行かなければなりません。星を結んでも水蛇のイメージはなかなかわいてきません。水蛇座の東に大マゼラン銀河、西に小マゼラン銀河があるので、この間を探すとわかりやすいかもしれません。

◎レチクル座

1763年にラカーユが作った星座です。レチクルとは、ライフルスコープや望遠鏡のファインダーなどの中に、目標物に合わせるために十字やひし形に張られた糸のことです。ラカーユは自分が使っていた望遠鏡がひし形のレチクルだったため、それを星座にしたのだそうです。星の明るさは3等星が1個と4等星が4個ありますが、特に目立つ星座ではありません。位置はりゅうこつ座のカノープスとエリダヌス座のアケルナルの間にあり、南東に大マゼラン銀河があります。沖縄で北側半分が見えてきますが、低空なので見えるかはビミョーです。

※星図はステラナビゲーター10（アストロアーツ）にて作成しています。

天文トピックス

★2018年後半の天文情報（6月～11月）

★流星

●ペルセウス座流星群（8/1～8/20）

7月20日ころから見られますが、見やすくなるのは8月に入ってからです。毎年夏休み中に見られる流星群で、明るい流星が多く、数も多いので見やすい流星群です。今年の極大は8月13日午前10時ころと予想されていますが、10日から15日ころまで活発で13日未明は特に多く見られるでしょう。月明かりがなく最良の条件です。放射点はペルセウス座とカシオペヤ座のあいだですが、流星は放射点を中心に空全体に流れますから、街灯などの明かりが少ない方向を見ると良いでしょう。

●りゅう座流星群（ジャコビニ流星群）

ジャコビニ・ジンナー彗星に伴う流星群で、今年は母天体の回帰の年になります。極大は10月8日で、放射点が夕空の高い位置にあります。流星はあまり明るくはないですが、月明かりもなく好条件なので注目してみたいところです。放射点は竜の頭の部分で、こと座のベガの北にある少しゆがんだ四角形が目印です。りゅう座流星群は暗いものが多いので、なるべく街灯などの

ない場所で見るのが良いです。

●オリオン座流星群（10/10～30）

5月のみずがめ座流星群と同じ、ハレー彗星に伴う流星群です。極大は22日ころで放射点が出てくる22時以降に見られます。今回は満月近い月があるため条件はよくありません。

●おうし座流星群（10/15～11/30）

エンケ彗星に伴う流星群で、長い期間見られますが数はあまり多くありません。二つの群からなり、南群が11月1日ころ、北群は11月12日ころ極大になります。やや赤みがかった色のゆっくりとした流星が特徴ですが、時々火球と呼ばれる明るい流星が見られます。

●しし座流星群（11/5～25）

2001年の大出現から17年になり、母天体のテンペル・タットル彗星は太陽から最も遠い遠日点付近にいます。18日の未明に見られますが、上弦過ぎの月があるので月が沈んだ後は見やすいでしょう。ただし、数は少ないでしょう。

★彗星

●ジャコビニ・ジンナー彗星（C/21P）

10月のりゅう座流星群の母天体で、9月10日に近日点（太陽に最も近いところ）を通過します。明け方の空でぎょしゃ座にあり、双眼鏡で見えそうです。

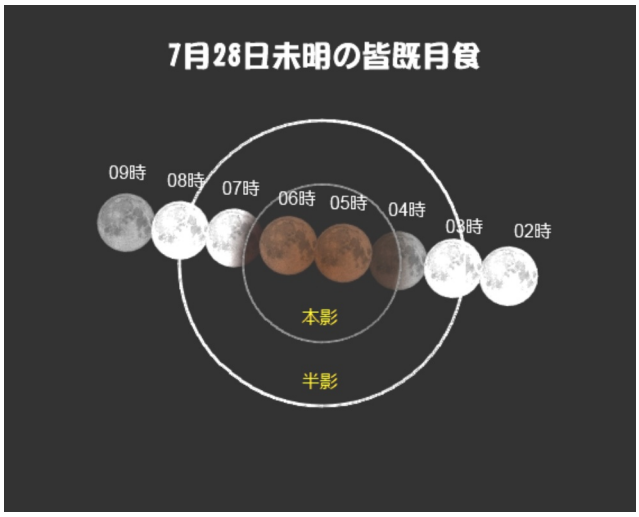
●ウィルターネン彗星（C/46P）

5.4年周期で回る彗星で、2018年12月13日に近日点を通過します。11月中旬には地球との位置関係がよく、4等級まで明るくなる見込みで、おうし座の中を通過し、宵の空で肉眼でも見える可能性があります。ただし、11月15日が上弦、23日が満月になるため、11月末から12月上旬が見やすいでしょう。12月16日はプレアデス星団の近くを通りますが、上弦過ぎの月があるので双眼鏡で見るのが良いでしょう。

★日食・月食・星食

●日食はありません。

●7月28日未明に皆既月食が見られます。



今回は北海道、青森の一部、岩手の一部では皆既月食が始まる前に月が沈んでしまいます。それより南の地方では皆既月食が見られますが、皆既月食が終わる前に沈むため、最後まで見ることはできません。次回は2021年5月26日で、日本全国で皆既月食が見られます。

部分食の始まり	03h24m
皆既食の始まり	04h30m
食の最大	05h22m（食分1.61）
皆既食の終わり	06h14m
部分食の終わり	07h19m

★惑星

●水星：8月27日、12月15日は明け方の東空で、7月12日、11月7日は夕方の西空で最大離隔となります。水星は最大離角でも地平線からの高度が低いので、良い条件で見られることは少ないです。

●金星：8月18日に夕方の空で最大離角になりますが、地平線からの高度はあまり高くなりません。9月21日に最大光度（-4.6等）になり日中でも肉眼で見られます。10月26日に内合となり以後明け方の空、12月2日に明け方の東空で最大光度になります。

●火星：7月31日に15年ぶりで地球に大接近（5,759万㎞）します。見やすくなるのは5月以降で、6月から9月にかけて楽しめるでしょう。大接近のころ（7～8月）は木星よりも明るく見えます。

●木星：5月9日にてんびん座で接近し、9月上旬ころまで見られます。

●土星：6月27日にいて座で接近し、10月まで見やすくなります。今年も環の傾きが大きく見応えあります。

●天王星：10月24日に地球に近づきますが、小さいので模様は見えません。

●海王星：9月8日に地球に近づきますが、もっと小さいです。

夏休み中は4つの惑星が勢揃いしていて、西から金星、木星、土星、火星の順に並びます。

@星まつりのお知らせ　★<　★<<　◎<<<

1992年に始めた星まつりも回を重ねて今年で27回目となります。今年は8月4日（土）に行いますので、近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mailどちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

「ＭｙＳｔａｒｓ通信」の送付について、登録番号9611までの方は次号よりホームページ上でご覧ください。なお、インターネット利用環境のない方、すでに郵送希望のお申し出をいただいている方につきましては、今後とも郵送することで考えております。今後も郵送をご希望の方はご一報いただきたくお願いします。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

[編集後記]

今号も『綺羅星列伝・星物語』がありませんでした。皆様からお寄せいただいた物語のストックがなくなってしまいました。まだ書いていない方、これまで書いていただいた方も含め寄稿よろしくお願いします。

今年の冬は全国的に雪が多く、雪になれていない地方の方は苦労されていたようですね。初山別では雪になれているとは言え、例年になく多い雪で除雪に苦労しました。道路の除雪も追いつかず、道幅が狭くなり、暴風雪も度々あったため国道の封鎖で、陸の孤島になったこともありました。

2018年から19年にかけて太陽の活動が最も衰える“極小期”になる見込みです。極小期は太陽からのエネルギーが少なくなるため、涼しくなるのが本来の姿ですが、2000年以降で見ると極大期も極小期も関係なく暑いですね。涼しすぎて冷夏になっても困りますが、桜の開花が早くなった今年の夏はどうなるでしょう。

編集・発行	しょさんべつ天文台	〒078-4431 北海道苫前郡初山別村字豊岬153-7
天文台ホームページ	URL=http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/shtenmon/	
E-Mail	教育委員会	kyoui.syakyou@vill.shosanbetsu.lg.jp
	しょさんべつ天文台	tenmon@aurens.or.jp